

(92) 福島県郡山市湖南町の日山鉾山 (改訂版)

8年ぶりに、日山鉾山を岩友とともに再訪問した。今回はガーミン持参である。確りとした探査報告ができると思う。8年前もそうであったが、現在でも現地へは立派な林道を車で進んで行き、現地に横付けして駐車できる。この林道の先にある高簾山への登山ルートにもなっているからなのも知らない。

参考文献(1)には、「本鉾山の鉾床は隣接する高簾鉾山の鉾床と酷似しており、鉾石鉾物は自然金、黄銅鉾、黄鉄鉾、方鉛鉾、閃亜鉛鉾。脈石鉾物としては石英および少量の重晶石が認められる。」の記述がある。

2019年4月追探査



図1 現地は郡山と猪苗代湖の中間付近にある三森トンネルの南側に位置している。図中の赤丸の当たりである。車では東北道を郡山ICで降り、郡山から猪苗代湖へ向かう6号線に入ってから西行して行く。

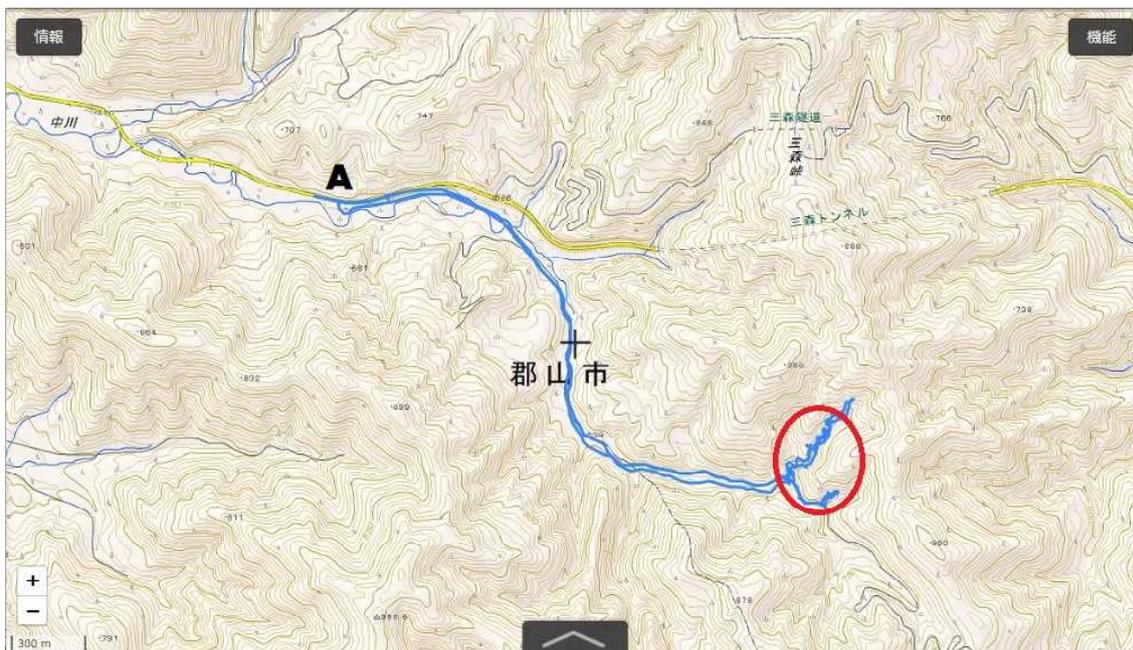


図2 三森トンネルを抜けと右手は山、左手は谷となる。て、約1km先のA点の所で、左側にある側道に入っていく。青色曲線がガーミンによるログ曲線である。あとは道なりに進んでいく。赤丸が鉾山跡。現地の先まで立派な林道である。今回の追探査の時は通行可であった。年々、林道がゲートで閉鎖されている場合が増加していることに、一応留意しておくべきであろう。その場合には潔く歩こう。

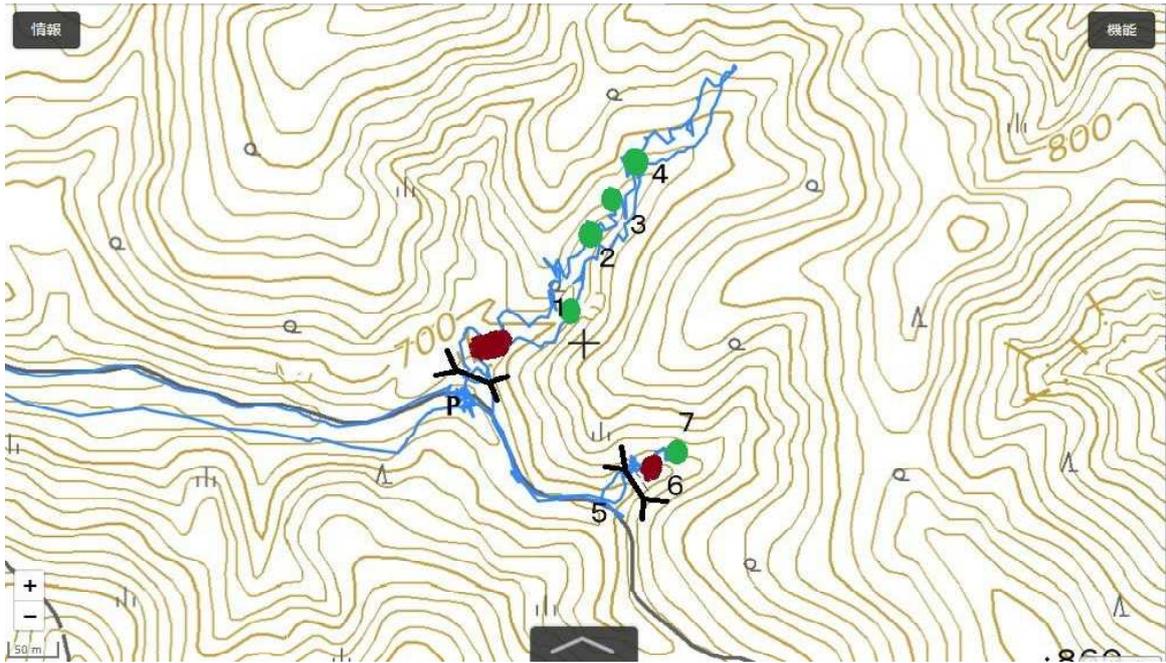


図3 図2の部分拡大図。P点が駐車位置。目前にある砂防ダムを乗り越えると、大規模なズリ跡。カラズリ的なので良い標本をさ見つけるためには、じっくり腰を据える必要があるだろう。ズリの上は広い平坦地の林となっており、かつての鉱山施設跡と思われる。以降に掲載している現地写真の紹介しやすさを考えて地図上に番号を振っている。茶色ベタはズリ跡。黄緑丸が坑口および其れ擬き跡。なを、青色のガーミンのログ曲線には測定誤差があることに留意すること。

鉱山跡写真



番号1 本論の写真2の場所である。湧水が流れ出している。
坑口が完全に埋もれた場所と判断した。添付資料2の坑内外図と対比して、「一号坑」と判断した。



番号 2-1 沢の左岸にあった坑口跡。
冷風が吹き出していたので、先に開口部がある
はず。添付資料 2 と対比して「二号坑」と判断した。



番号 2-2 その入り口内部の様子



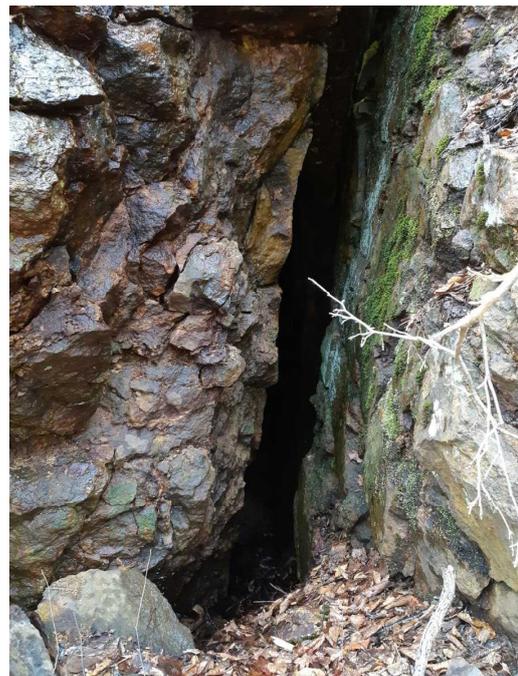
番号 3-1 沢の右岸。中央に縦方向に掘り
込まれた坑口が連続している。露頭鉞脈に
沿って掘り込んだのであろう。



番号 3-2 近接しての一様。縦に伸びていた
鉞脈に沿って掘り込んだようである



番号 4-1 さらに上流の右岸上部。ここも
垂直な鉞脈に沿って掘り込んだ
ようである



番号 4-2 深く暗い坑口を入り口より覗く



番号5 林道から砂防ダムを見る



番号6 砂防ダムを乗り越えた先にあったズリ跡らしい箇所。



番号7-1 その上流の右岸の河床水準にあった坑口跡。中央の少し黒い所。添付資料2との対比から「新盛坑」であろう。」



番号7-2 その入り口から覗く。確りと閉塞している。草木が生い茂ると隠されてしまいそう。

鉱物写真

参考文献

(1)「日本金山誌 第3編 東北」、社団法人 資源・素材学会、1992年。

添付資料1

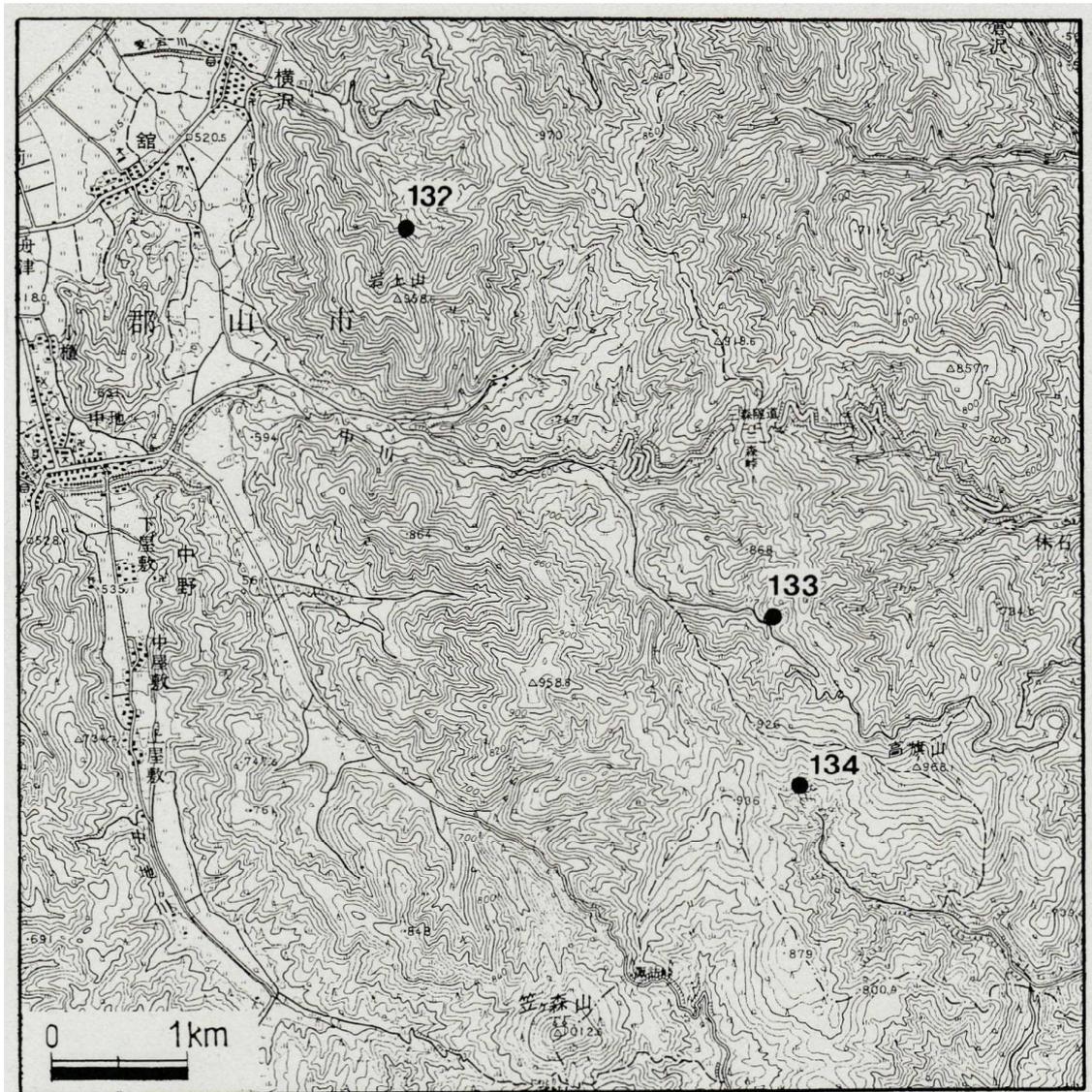


図132-1 金山沢 (132), 日山 (133), 高旗 (134) 鉾山位置図 国土地理院 5万分の1 猪苗代湖 (H3)

参考文献 (1) より複写掲載。番号133が日山鉾山。番号134の高旗鉾山については既報である。が、探査不十分と思っているので、そのうちに再探査を行うかも。番号132の金山沢金山の探査は、本鉾山と同日に行った。最近、アップロードした。

添付資料2

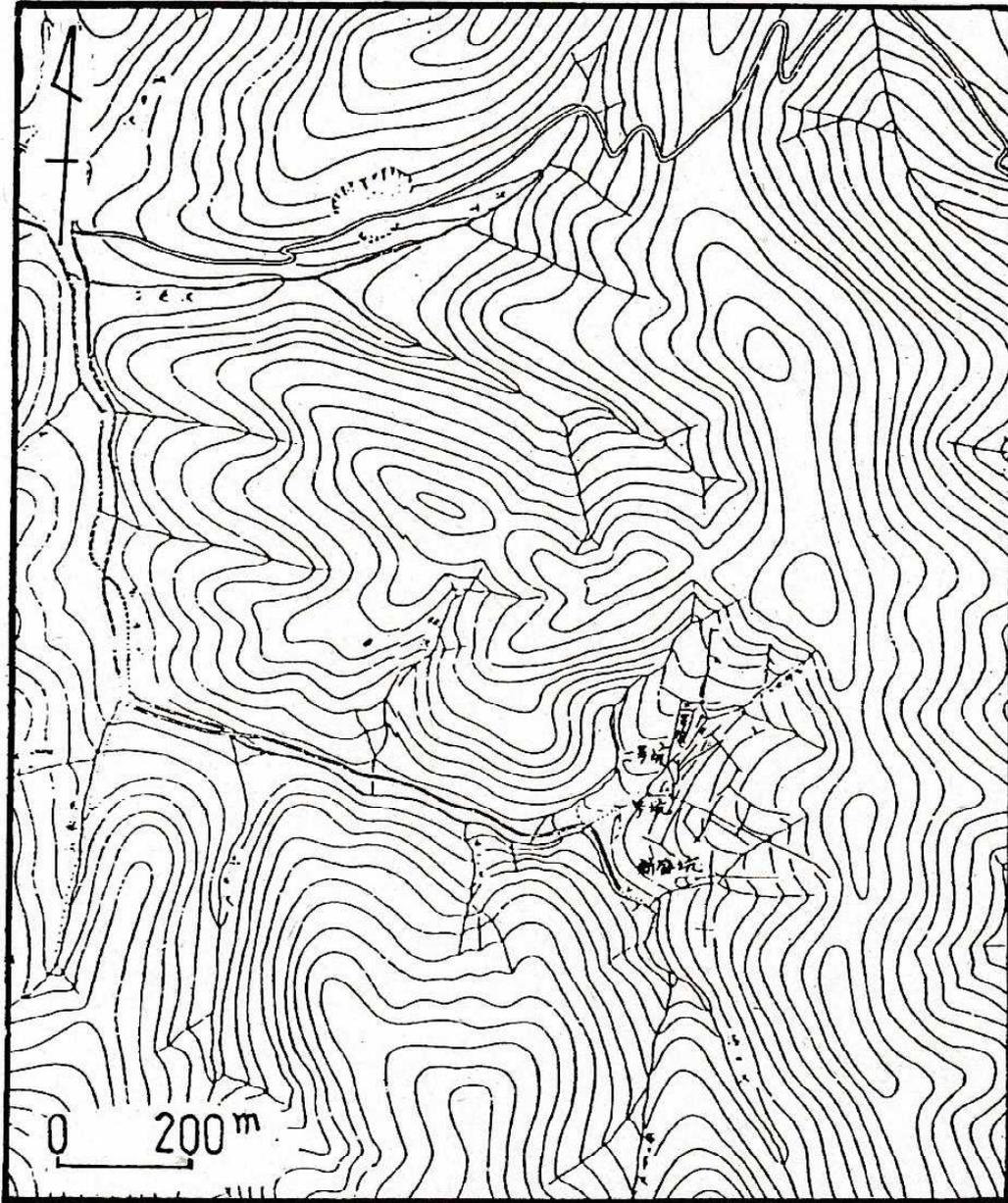


図133-1 日山鉦山坑内外図

参考文献(1)より複写掲載。この地図の上部の峠道は現在「三森トンネル」に置き換わっている。
文字が潰れているが、「一号坑」、「二号坑」、「三号坑」、「新盛坑」と辛くも読み取れる。

(92) 福島県郡山市の日山鉦山跡

これも参考文献(1)に紹介されていた鉦山跡である。これを手引きに、現地の探査を安積石膏鉦山と同日に行った。現地は確認できたが、参考文献中の地形図の鉦山位置を示す赤丸破線の位置が不正確であると判断した。200m程ずれている。廃鉦山の位置は、明瞭な痕跡が視認できないと、10m離れていても確認は難しい。見失ってしまう場合がある。200m以上も離れているとなをさらである。が、現地には砂防ダムがあり、その先にズリ跡らしい場所が林道から視認できたので、この場所が、日山鉦山跡と確信した。

現地への経路は次の通りである。安積石膏鉦山からの帰り道ならば、6号を東に約1km進むと、進行方向右側に、林道への入口がある。高簾山への登山口への入口でもある。この林道に入り、道なりに進んでいくと、約2.3km当たりの所で、林道の左側に大きな砂防ダムがある。その先に林道からでもズリ跡らしいものも見える。この砂防ダムは、ズリの崩落も防ぐために設置されたようである。ここが、日山鉦山跡である。

現地の探査終了後、後日、グーグル・アースで、現地の様子を調査した。図2に、日山鉦山付近の地表写真を掲載している。砂防ダムとズリ跡が明瞭に視認できることがわかる。ついでながら、参考文献(1)に記載されている鉦山跡位置は、雲がかかっている当たりである。

現地は確認できた。ズリもある。坑口跡らしい箇所も確認した。

探査日 2011年 7月、その他



図1 国土地理院の地図サービスホームページより複写掲載。茶色丸がズリ跡。その下に砂防ダムがある。黄緑色は坑口跡と判断した箇所。林道を右下へと進んでいくと、高簾山への登山口にたどり着ける。

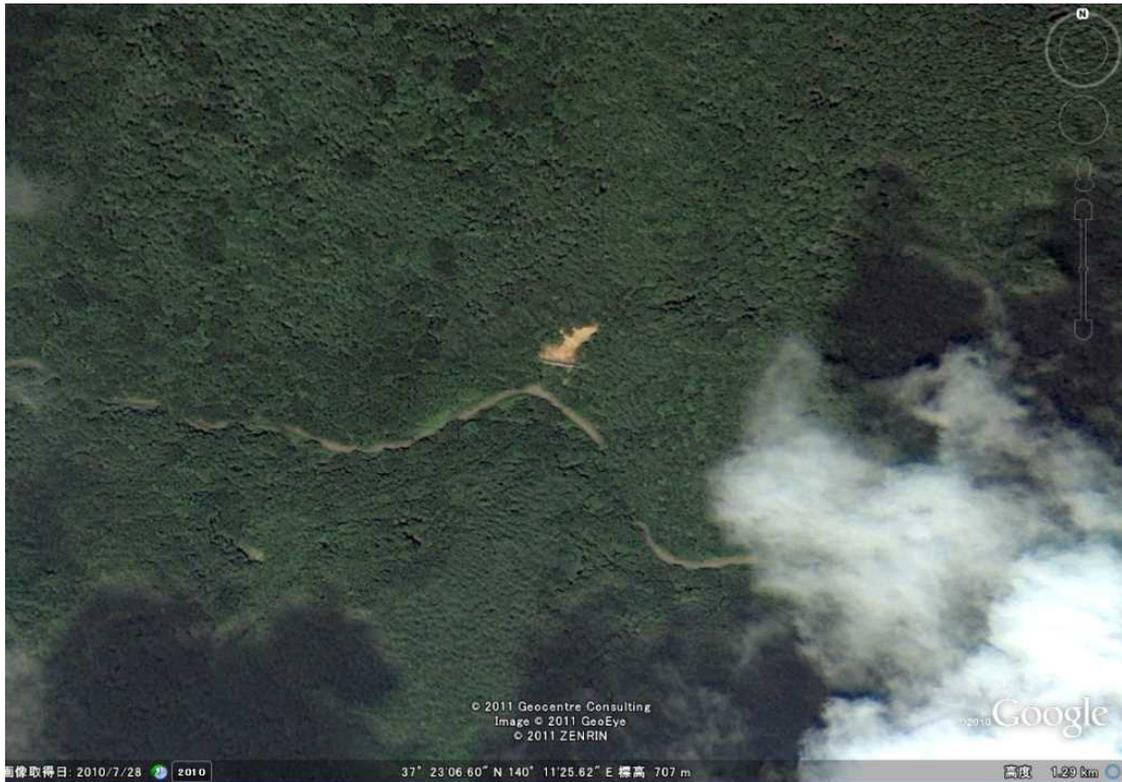


図2 グーグル・アースより。日山鉦山付近の地表写真。林道の直ぐ北に砂防ダム、そしてズリ跡らしい茶色の箇所が視認できる。

鉦山跡写真

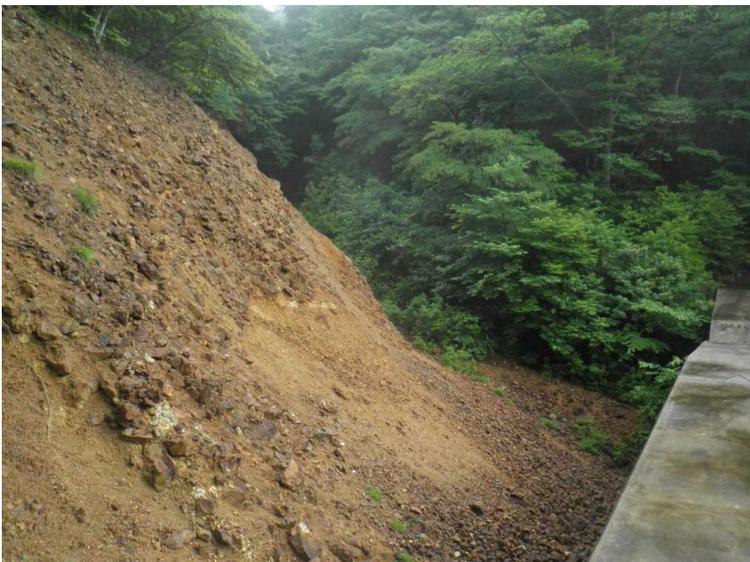


写真1 砂防ダムの上に立って、ズリ跡を撮影。ズリ下に降りていくと、鉦石に汚染された石が結構沢山転がっている。良い標本を見つけられなかったので未採集。ズリの上部は、草木が生い茂っているが、結構平坦な場所となっている。



写真2 ズリの上部の平坦部を先に進んでいくと、山肌斜面から突然、水がこんこんと流れ出していた。閉塞され、外形をとどめていない坑口跡で見られるパターンである。周りは平坦地であり、潰れた坑口跡と判断した。

採集鉱物写真

良い標本を見つけられなかったので未採集。

参考文献

(1)「地球の鉱物コレクション イン・フィールド部門 (福島県郡山市 安積石膏鉱山)」、デアゴスティーニ。隔週刊。